

山中即事

市村瓊次郎

雲来つて千嶂合し

雲去つて万峰分

青山元より動かず

一に任す去来の雲

【作者】市村瓊次郎（一八六四〜一九四七年）東洋史学の大家。茨城県の人。字は圭卿、号は器堂。小永井小舟（こながいでしょうしゅう）の門にて漢籍を学び、長じて帝国大学古典漢書科を卒業。学習院教授、帝国大学教授を歴任、新声社を結成し、於母影（おもかげ）を共訳にて刊行。その出来は同時代の水準を遥かに超えるものであったという。

【通釈】雲に包まれば峰は合して一山（いちざん）となり、雲が去ればまた分かれて数峰（すうほう）となる。しかし青山（せいざん）は元から動いてはいない、ただ雲の去来によってそう見えるだけなのだ。